

M O N T H L Y **vol.48** U P



1bit TIFFによるCTPワークフロー。

白か、黒か！？ モノクロ2階調で、 安定したCTPデータ運用を。

前号でも少しご紹介しました、TIFFフォーマット。CTPが普及する現在、このフォーマットを利用したワークフローが注目されつつあります。

CTP出力ファイルとして、TIFFが脚光を浴びている。と言うと、アレッと疑問を持つ方もおられるかもしれません。「TIFFって画像形式のことでは」と。確かにTIFFは、イメージフォーマットのひとつですが、その特性を活かすことで、CTPにおけるワークフローを快適にすることができるのです。

まず、TIFFについて簡単に説明しましょう。これは、Aldus社とMicrosoft社によって開発され、モノクロからカラーまで対応可能なイメージフォーマット。比較的应用に依存しないため、さまざまな環境で使用できます。

このTIFF画像、再現できる色数がビット数によって、変わってきます。ちなみにビットとは、2つの選択肢から1つを特定するのに必要な情報単位のこと。1ビットなら、0か1。画素で言い換えるなら、白か黒。つまり1bit TIFFなら、モノクロ2階調で画像が構成されるわけです。

校了フィルムが存在しないCTPでは、これに変わる最終デジタルデータが必要。この際、演算が済み、CMYKに分版された出力直前のアミ点情報をデータにする1bit TIFFなら、文字化けの心配がありません。まるでオセロのように、白と黒でしか階調を表現できない1bit TIFFですが、CTPのワークフローにおいては、その安全性が大きな注目を集めているのです。確実に出力でき、生成・出力にメーカーを問わないオープンなスタンスは、デジタル時代のフィルム

と言っても良いかもしれません。

1bit TIFFはPDFによるワークフローと比較されることもあります。あまり意味のないことと言えるでしょう。なぜなら、面付けや簡単な修正が可能なPDFに対し、製版処理が終わった出力直前のデータである1bit TIFFでは、単純な比較が成り立たないからです。

では、製版フィルムに変わるものとして、1bit TIFFが定着したかという点、まだまだ課題も多いようです。そのひとつに、データ作成の時点で解像度が決まってしまうという点があります。データの解像度と出力装置が対応する解像度が一致しない場合、問題が発生するケースもありえるわけです。また、製版フィルムのように刷版露光時にアミ点を調整する、というフレキシブルな対応が不可能。一度1bit TIFFにしてしまうと、その後の加工は困難なのです。さらにカラーならデータはCMYK4版分になるため、ファイルが重くなります。処理に時間が掛かるうえ、プリンタで出力する場合には、ファイルをひとつに変換する手間が発生します。

こうした課題を解決すべく、1bit TIFFワークフローを前提とした製品が次々と登場。CTP環境はより安全に、使いやすく整備されつつあります。CTPが印刷の主流になる日も、そう遠くないかもしれません。





<http://www.sezax.co.jp>

<input type="checkbox"/> 本社・工場	〒146-0091 大田区鵜の木2-9-7	TEL 03 (3758) 2511(代)	FAX 03 (3758) 2754	
		営業専用	FAX 03 (3758) 2544	
<input type="checkbox"/> 渋谷コア	〒150-0002 渋谷区渋谷3-19-1 渋谷オミビル6F	TEL 03 (3400) 9211(代)	FAX 03 (3409) 7315	
		5F	TEL 03 (3400) 9401(代)	FAX 03 (5468) 9253
<input type="checkbox"/> マニュアル企画部	〒146-0091 大田区鵜の木2-9-7	TEL 03 (3758) 2591(代)	FAX 03 (5482) 2777	
<input type="checkbox"/> 下丸子工場	〒146-0092 大田区下丸子2-20-4	TEL 03 (3758) 2516(代)	FAX 03 (3758) 8850	

株式会社セザックスクリエイティブ

〒150-0002 渋谷区渋谷3-19-1 渋谷オミビル2F TEL 03 (3409) 4970(代) FAX 03 (3409) 2732

株式会社セザックスインターナショナル

〒150-0002 渋谷区渋谷3-19-1 渋谷オミビル2F TEL 03 (3409) 0527(代) FAX 03 (3409) 6610



VOC(揮発性有機化合物)成分ゼロの地球にやさしいインキを使用しました。

この小冊子は再生紙を使用しています。